道徳遺跡

筑紫野市文化財調査報告書　第83集

2005

筑紫野市教育委員会

道　徳　遺　跡

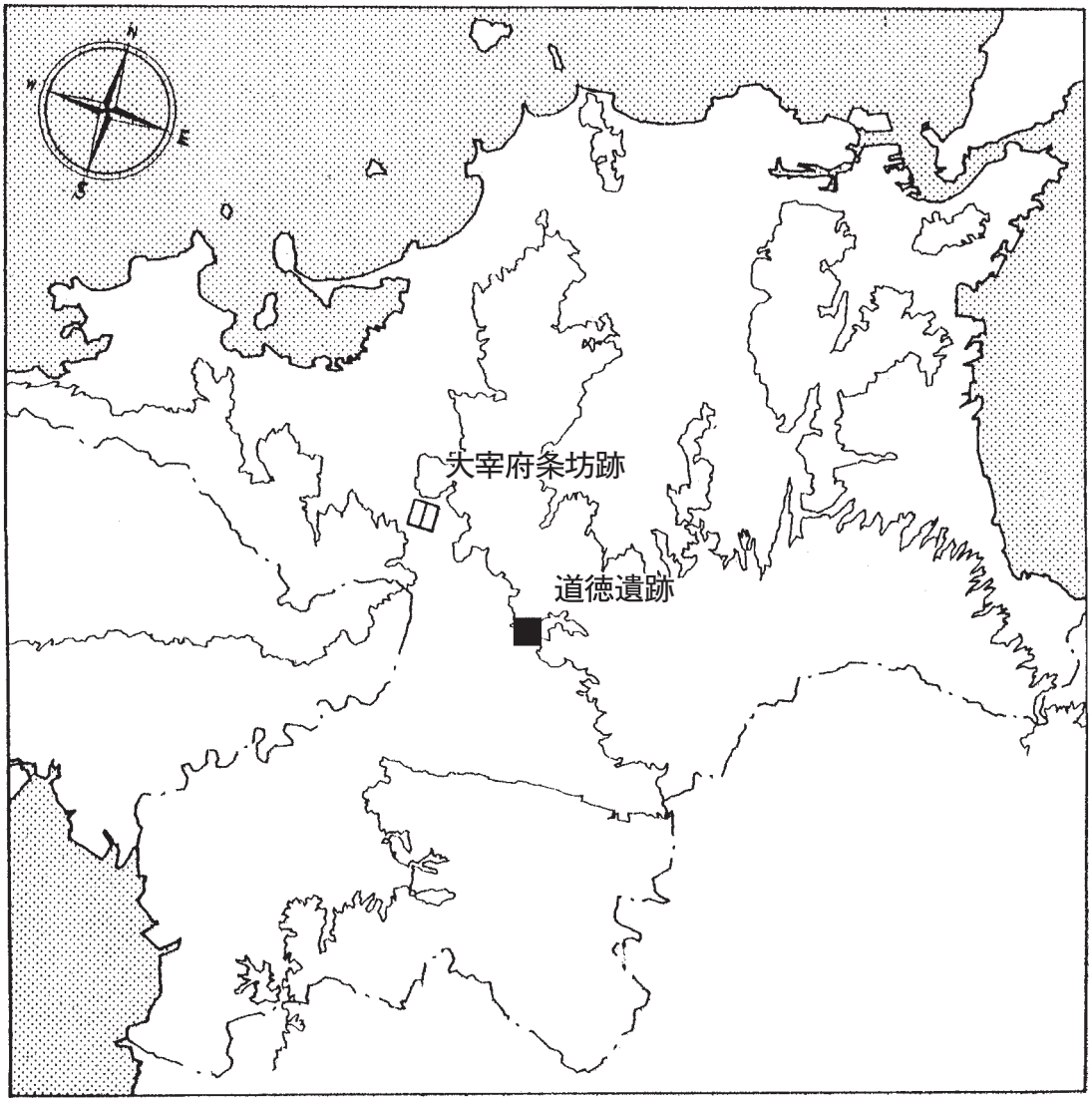
筑紫野市文化財調査報告書

第83集

２００５

筑紫野市教育委員会

道徳遺跡



例　　言

1．本書は、市立山家幼稚園園舎建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査は筑紫野市教育委員会社会教育課文化財担当（当時）が実施した。

3．調査対象地は、筑紫野市大字山家4342番地の５、面積113m²である。

4．試掘調査から発掘調査に至る業務は、渡邊和子（当時文化財担当技師）が行った。

5．調査にかかる実測および写真撮影は渡邊が行った。

6．現地での遺物取り上げにあたっては、完結する単体の遺構には頭にＳを冠し、掘立柱建物跡として纏まらない単体のPitにはＰを冠した。報告書作成にあたり、遺構の性格付けを行い、墳墓をST、土坑をSK、溝状遺構をSD、不明遺構をSXの略号とし、番号については、遺物取り上げの番号をそのまま付した。

7．遺物の挿図番号と図版番号は同一であり、遺物写真の大きさは不統一である。

8．本報告で記載する遺物の分類・時期区分については、下記の文献を参考にした。
　　真陽社　　中世土器研究会編　概説　中世の土器・陶磁器

9．本書で示す土層や遺物の色については、農林水産省農林水産技術会・㈶ 日本色彩研究所監修「新版　標準土色帳」を基準とした。

10．挿図中に使用した方位は、すべて座標北を指し、磁北を示す場合は、挿図中にG.Nを記している。

11．本書の執筆・編集は、渡邊が行った。

目　　次

本　文　　**頁**

1．調査に至る経過 …… 3
2．位置と環境 …… 3
3．調査の内容 …… 4
① SK（土坑）…… 4
出土遺物 …… 9
② ST（墳墓）…… 10
出土遺物 …… 10
③ SE（井戸）…… 10
出土遺物 …… 10
④ SD（溝状遺構）…… 11
出土遺物 …… 14
⑤ Pit（柱穴）…… 14
出土遺物 …… 15
4．まとめ …… 16

Fig.（挿図）

Fig. 1　周辺遺跡分布図（S1/25,000）… 1
Fig. 2　周辺地形図（S1/2,500）…… 2
Fig. 3　全体遺構配置図（S1/100）…… 4
Fig. 4　SK-4・7・10・18・22・23・25・27 実測図（S1/40）…… 7
Fig. 5　SK-7・10・18・20・22・25・26 出土遺物実測図（S1/2）…… 8
Fig. 6　ST-6実測図（S1/40）…… 9
Fig. 7　ST-6出土遺物実測図（S1/2）… 9
Fig. 8　SE-14実測図（S1/40）…… 9
Fig. 9　SE-14出土遺物実測図（S1/2）… 10
Fig. 10　SD-2・9・11・24実測図（S1/40）… 12
Fig. 11　SD-2・15・16出土遺物 実測図（S1/1・1/2）…… 13
Fig. 12　Pit出土遺物実測図（S1/2）… 14
Fig. 13　Pit出土遺物 実測図（S1/1・1/2）…… 15

表

表－1　SK一覧表 …… 5
表－2　SD一覧表 …… 11
表－3　出土土器観察表 …… 16～17

PL.（写真図版）

PL. 1　全景（南から）…… 3
PL. 2　全景（近景）…… 4
PL. 3　SK …… 6
PL. 4　SK出土遺物 …… 8
PL. 5　SE-14 …… 9
PL. 6　SE出土遺物 …… 10
PL. 7　SD-11 …… 11
PL. 8　SD-11土層 …… 13
PL. 9　SD出土遺物 …… 13
PL. 10　Pit出土遺物 …… 14
PL. 11　Pit検出状況 …… 15

1　下ノ原遺跡

2　山家遺跡

3　山家宿跡

4　本谷遺跡

5　山家古墳群

6　道徳遺跡

7　丸隈遺跡

8　池田古墳群

9　浮殿Ａ遺跡

10　浮殿Ｄ遺跡

11　人形原遺跡

12　大島遺跡

13　赤坂古墳群

14　吹田古墳群

15　鬼神山遺跡

16　茶屋原遺跡

17　八ヶ坪遺跡第１・２地点

18　八ヶ坪遺跡第３・４地点

19　八ヶ坪遺跡第11地点

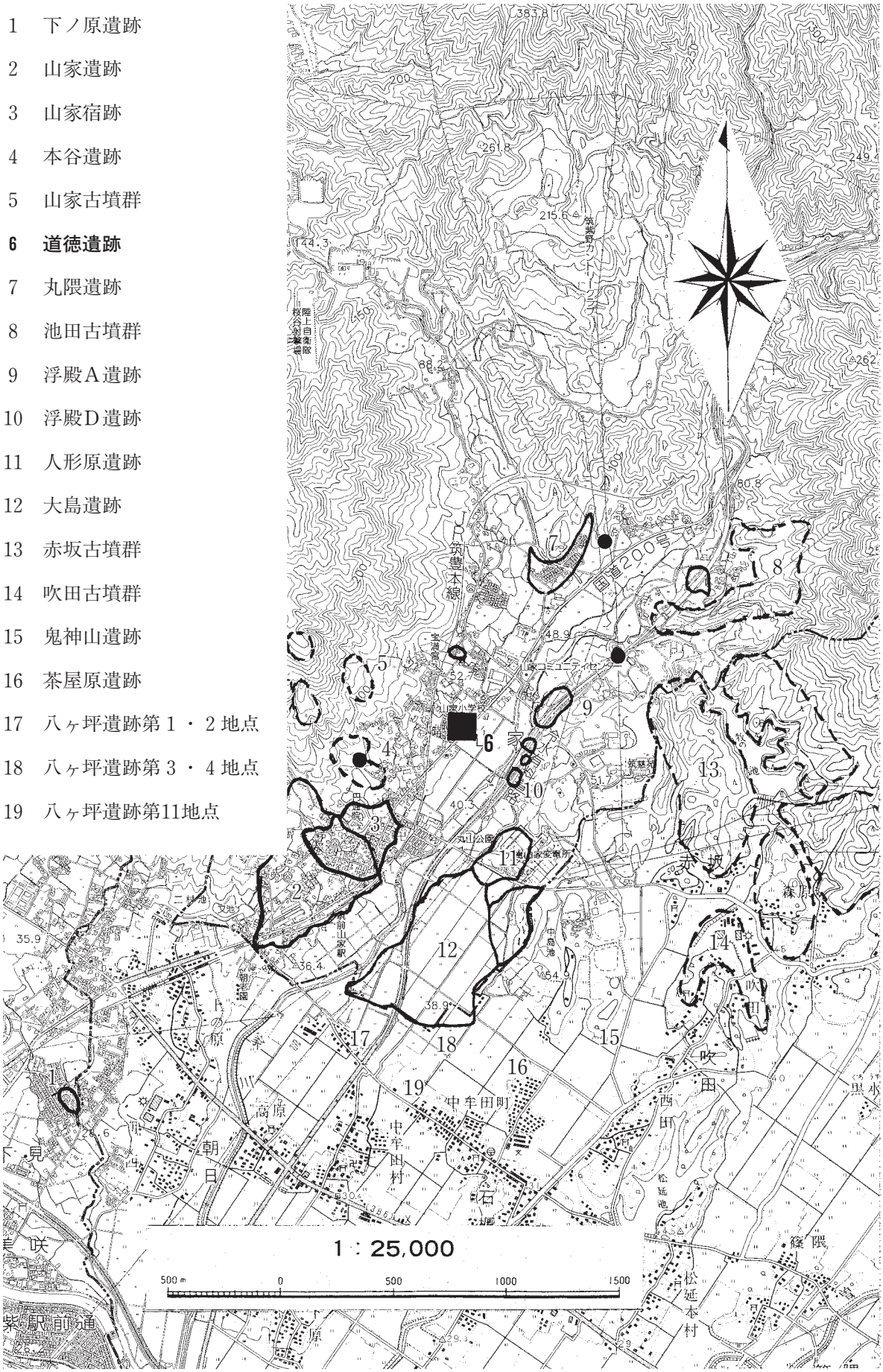


Fig. 1　周辺遺跡分布図（S1/25,000）

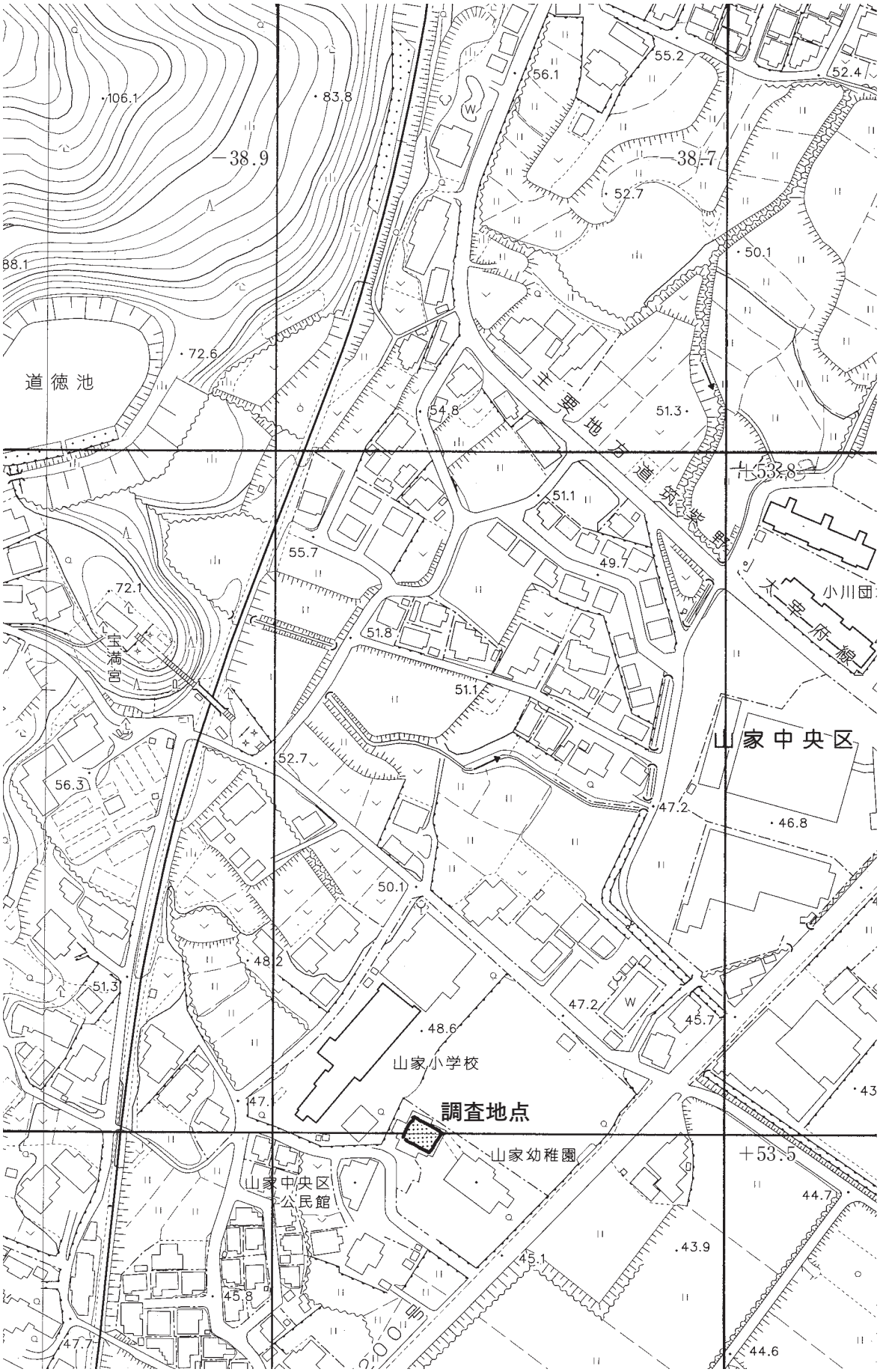


Fig. 2　周辺地形図（S1/2,500）

1．調査に至る経過

筑紫野市では教務課の所管する市立山家幼稚園の園舎建替え計画案を策定し、平成11年度に学校施設課より社会教育課に実施計画の事前協議書が提出されたと同時に「埋蔵文化財の有無」の照会が提出された。その後、確認調査について協議し同12年３月に確認調査を実施した。調査では現在の運動場付近には遺構が存在せず旧地形は谷である事と園舎付近に遺構が残っている事を確認した。この結果を学校施設課と再協議し、園舎の解体時点に再度確認調査を行う事とした。園舎解体が予定より遅れたため確認調査は６月に実施した。調査の結果、園舎側は著しい削平を受けていたが、園舎西側の調理場付近に遺構が遺存する事が分かり、急遽学校施設課と本調査について協議をした。しかし建設全体スケジュールの遅れがあって調査期間の余裕もないため、ただちに本調査を実施する事となった。調査は、平成12年７月１日から７月15日まで行った。調査対象地には建物の基礎が残っていたが、遺構を破壊しないために取り崩さずにそのままの状態で調査を行った。

2．位置と環境

遺跡の所在する山家は筑紫野市の東南部に位置し、朝倉郡夜須町・嘉穂郡穂波町と接する。大根地山を東に宮地岳を西に望み、山家川を中心とした平野部に所在する。この平野の中央部には山家川が山家・冷水道沿に下り、沖積平野を形成しながら筑後川の支流である宝満川と合流して有明海へと注ぐ。宝満川の中流域には、数多くの遺跡が存在している。この山家川も宝満川と同様に河岸段丘上に多くの遺跡があり、国道200号線建設に伴う事前調査などによって知られている。道徳遺跡はこの平野の中央付近の左岸の奥まった所に位置する。宮地岳（337m）の東山麓にあって標高46m前後を測る。今回の調査対象地は遺跡の縁辺部で遺跡の中心は、山家小学校や現集落付近であると考えられる。生活の場としての山家地区の歴史は古く、旧石器時代まで遡る。以後、生活痕跡は継続し江戸時代に至る。この生活の場としての隆盛を見せるのは、第一段階は弥生時代に第二段階は平安時代から鎌倉時代に、そして第三段階の近世にピークを向かえる。このピークの第二段階の後半に山家宝満宮が勧請され、現在の集落の基礎ができあがったと思われる。その後江戸時代に冷水越えの長崎街道が作られてからは、筑前六宿の宿場として栄えていた事は記憶に新しいところである。

PL. 1　全景（南から）

3．調査の内容

調査は、既存の園舎の基礎を残したまま行った。遺構としてはSK（土坑）30基、 ST（墳墓）10基、SE（井戸）１基、SD（溝状遺構）20条、Pit（柱穴）138個が検出された。

① SK（土坑）

SK-3はSK-4を切る。非常に浅く、不整長方形の土坑である。主軸長1.5m前後を測り、調査中の雨により壁が消失した。短辺1.5mを測り壁は斜めに立ちあがる。

SK-4は平面隅丸方形の形状をなす。SD-1・SK-39に切られる。長辺1.50～1.75mを測る壁は斜めに立ち上がり、深さは６～11cmで、床面は平坦となる。遺物には土師器･瓦器･青磁の細片が出土した。

SK-7、調査区の中央、南側で検出。基礎とPitに切られ、SK-8とSE-14を切る。形状は不整円で、床面は平坦である。出土遺物には土師器・瓦器・青磁の小片がある。

SK-10はSD-11を切って、埋土中に石が含まれる。石は整然と組まれた様子はなく雑然とある。床面は皿状で中央付近が深い。床面で検出されたPitは、この土坑に伴なうか不明。壁は真っ直ぐに立ち上がる。

SK-18の平面プランは不整形の形状で、床面は二段となる。下段の床はSK-22に切られ、SK-27を切る。壁は垂直に立ち上がる。土師器の細片が出土した。

PL. 2　全景（近景）

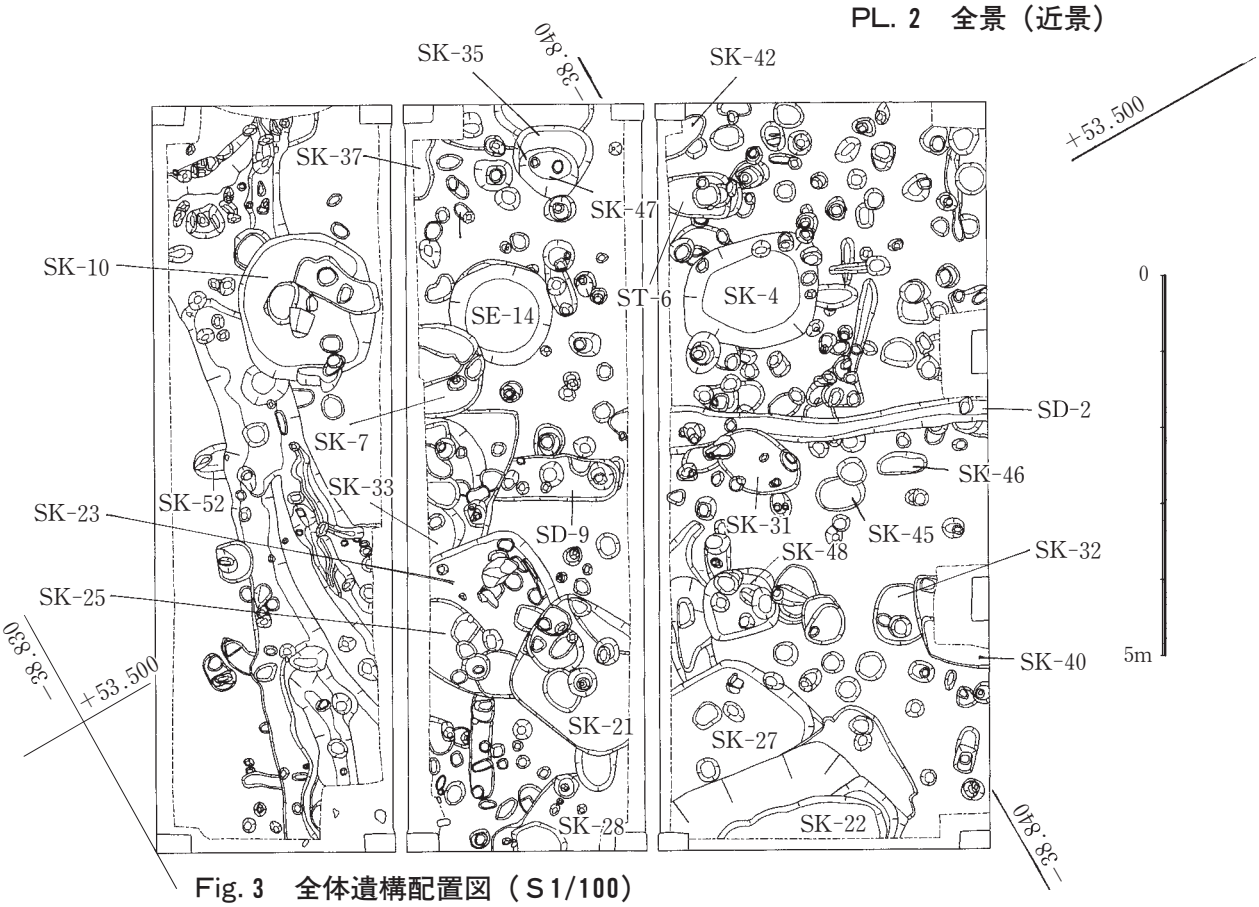


Fig. 3　全体遺構配置図（S1/100）

SK-21は、調査区の北側中央で検出。基礎に切られるが、不整形の形状となる。

SK-22は調査区北側にあってSK-18を切る。壁の立ち上がりは垂直に近い。長辺1.8m、短辺1.25mを測る。出土した遺物には土師器・青磁・白磁の小片があるが図示できなかった。

SK-23はSK-21・25・44に切られ、SK-8・SD-24を切る。形状は不整形を呈し、床面は平坦。深さは11～16cmで、大きな土坑あるいは小竪穴跡とも考えたが、床面の硬化・汚れの確認はできなかった。南西壁側に25×50cmの石が出土した。この石は意図して据えられた様子はなく、二次的な堆積物と思われる。出土した土師器・青磁・白磁は小片ばかりで図示できない。

SK-26の大半は基礎の方へ続く。SK-35に切られる。楕円形もしくは不整形の形状をなすと考えられる。壁は垂直に近く立ち上がり、深さ５～19cmとなる。土師器・白磁の細片が出土した。

SK-28、SK-36・43に切られる。全体的に遺存状況が悪く、壁も殆んど残らない。埋土は他の土坑の埋土と比べる湿った茶褐色となる。全体の形状は不明。ここからは縄文土器片が出土した。

SK-31はSD-20、SK-53を切り、不整楕円形の形状を呈す。長軸1.2m、幅0.79mを測る。床面は中央付近が深く、中心近くにPitが検出された。壁は緩やかに立ち上がる。

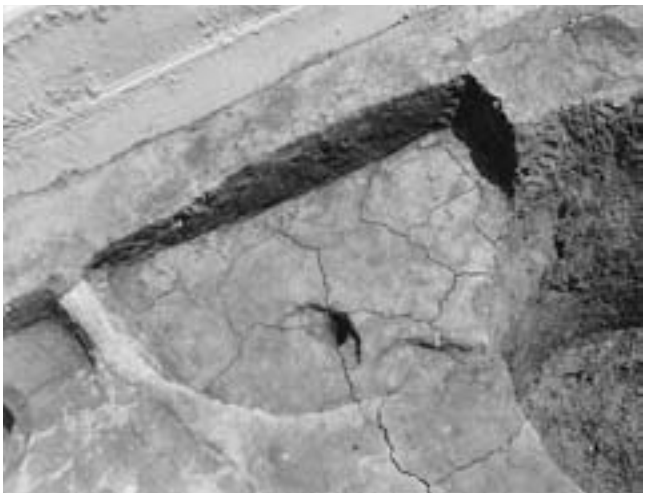
SK-32は、不整円の形状を呈し、径55cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、深さ７cmとなる。床面には凹凸がある。埋土は湿った感じの堆積土であった。遺物は土師器の小片ばかりが出土した。

SK-33北側をSK-23に切られる。また遺構の東側は基礎で切られるため一部しか検出できない。

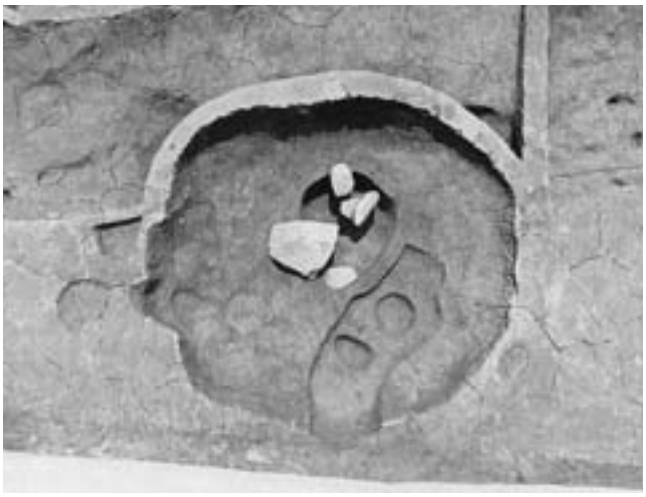
SK-35はSK-26を切り、SK-47に切られる。不整円の形状を呈す。89～96cmを測り、底面は平

表―１　SK一覧表

号	形　状	大きさ（m）			出土遺物	備　　考
		長	幅	深		
3	不整長方形	1.50	―	―	土師器、縄文土器、瓦器、鉄器	S4を切る
4	隅丸方形	1.75	1.50	0.06～0.11	土師器、瓦器、青磁	S1・39・pit53を切られる。S3・pit8・28・29・31・32・36・45・pitに切られる。
7	不整円	0.76＋α	1.24	0.20～0.24	土師器、瓦器、滑石、青磁、須恵器、陶器	S8・14を切る。pit79～81・カクランに切られる。
8	不整形	1.72＋α	1.23＋α	0.01～0.03	土師器、白磁、陶器、黒曜石	S9・pitを切る。S7・23・33・pit82・83・86～90・カクランに切られる。
10	隅丸方形	1.93	1.78	0.14～0.32	土師器、白磁、磨石、火舎	S11・17・19・pit109・246を切る。pit・カクランに切られる。
18	不整形	0.70＋α	1.71	0.05～0.09	土師器	S27を切る。S22・pit141・142に切られる。
20	不整形	2.01＋α	0.52	0.06～0.13	土師器、青磁、瓦器	S27・48・カクランに切られる。
21	不整形	1.82＋α	1.70	0.03～0.22	土師器、青磁、白磁、弥生土器	S23・36・44・pit135を切る。pit115・116・119・120・209pit・カクランに切られる。
22	不整形	1.80＋α	1.25＋α	0.41～0.75	土師器、須恵器、青磁、白磁、陶器、石鍋	S18・27を切る。カクランに切られる。
23	不整形	1.63＋α	2.07	0.11～0.16	土師器、青磁、白磁	S8・24・33を切る。S21・25・44・pit124・127・128・131・134～137・pit・カクランに切られる。
25	不整形	0.84＋α	1.09	0.02～0.12	土師器、青磁、硯、火舎	S23・24を切る。S44・pit124・131・137・Pit・カクランに切られる。
26	不整形	2.00＋α	0.59＋α	0.05～0.19	土師器、白磁	S35・pit114・pit・カクランに切られる。
27	不整形	1.75＋α	1.39＋α	0.22～0.28	土師器	S20を切る。S18・22・pit148・pit・カクランに切られる。
28	不整形	1.79＋α	1.03＋α	0.01 0.02	縄文土器	pit193を切る。S36・43・pit191・カクランに切られる。
31	不整楕円形	1.20	0.79	0.04 0.05	土師器、陶器	S2・53・pit70を切る。pit67・68・95・155pitに切られる。
32	不整円	0.55＋α	0.81	0.07	土師器	S40・pit65・71・pitに切られる。
33	不整形	0.61＋α	0.51＋α	0.16 0.21	土師器、瓦器、青磁	S8を切る。S23・pit・カクランに切られる。
35	不整円	0.96＋α	1.04	0.18	土師器、瓦器、須恵器、青磁	S26を切る。S47・pit111に切られる。
36	不整円	0.39＋α	0.52	0.19	土師器	S28を切る。S21に切られる。
37	不整形	0.80＋α	0.25＋α	0.10	土師器、瓦器	カクランに切られる。
39	不整形	0.55＋α	0.29＋α	0.03		S4・pit38・48・186に切られる。
40	不整形	0.80＋α	0.53＋α	0.13 0.22		S32・pit71を切る。カクランに切られる。
42	不整長方形	0.67＋α	0.32＋α	0.03		pit190を切る。カクランに切られる。
43	不整形	0.70＋α	0.40＋α	0.06 0.08		S28を切る。カクランに切られる。
44	不整形	0.63＋α	0.44＋α	0.15		S23～25を切る。S21・pit131・137に切られる。
45	不整円	0.65	0.44	0.01 0.14		pit152に切られる。
46	隅丸長方形	0.67	0.29	0.12		
47	不整形	0.65＋α	0.78	0.37		S35を切る。pit111・pitに切られる。
48	隅丸方形	0.95	0.90	0.29 0.31		S20・pit46・100・102を切る。S38・pit59・pitに切られる。
52	不整長方形	0.40＋α	0.46	0.14 0.17		S11に切られる石がある。
53	不整形	0.47＋α	0.44＋α	0.07		S2を切る。S31・pit64・95に切られる。



SK-7



SK-10

SK-21・23・25

SK-35・47

SK-27

PL. 3 SK

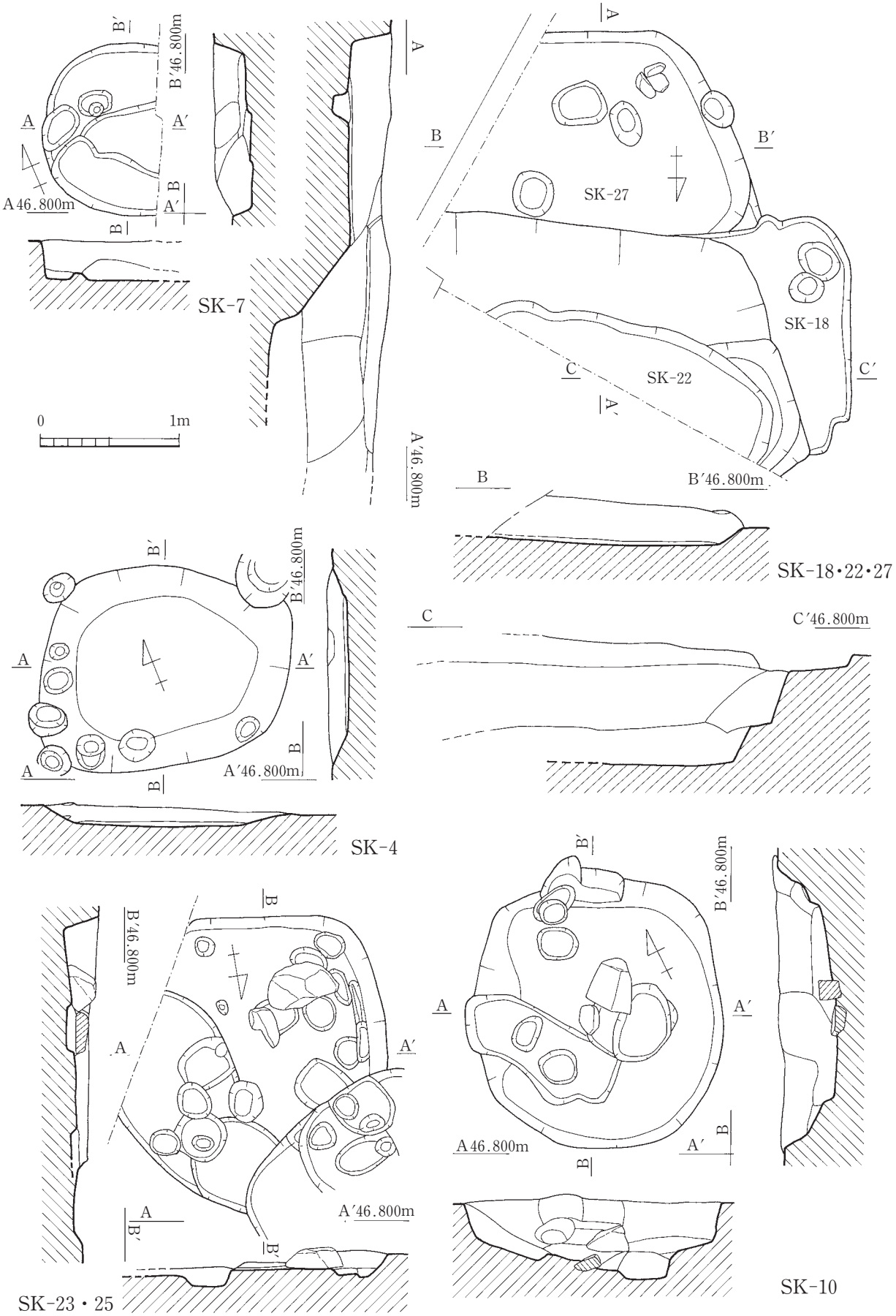


Fig. 4　SK-4・7・10・18・22・23・25・27実測図（S1/40）

坦な床で、壁は緩やかに立ち上がり、深さ18cmとなる。土師器・瓦器・青磁が出土したが細片のため図示できない。

SK-36はSK-21に切られ、SK-28を切る。径39cmを測り、大きめのPitかとも考えたが、深さは19cmで、埋土も周辺のPitとは異なっていたために土坑としてあつかった。

SK-37は遺構の大半が基礎の下にあるため、全容は不明。小片だが土師器・瓦器が出土した。

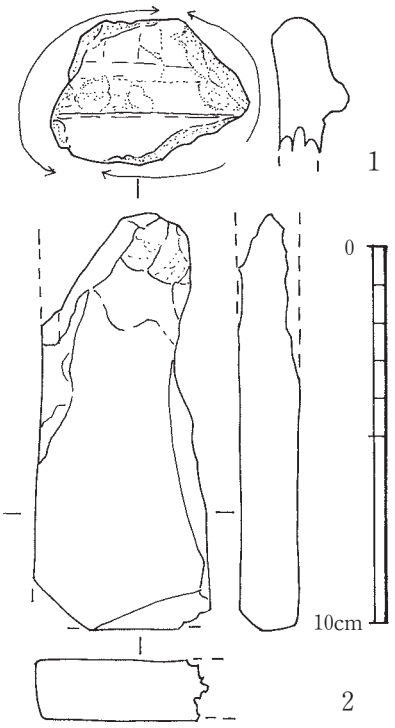
SK-39はSK-4に切られる。壁は緩やかに立ち上がり、底面までの深さは３cmである。床はほぼ平坦を呈す。平面プランは、不整形を呈している。図示できる遺物は出土していない。

SK-40はPit・基礎に切られて全容を摑めない。SK-32を切る。床までの深さは13～22cmを測り、壁は垂直に近く立ち上がる。遺物はまったく出土していない。

SK-42はST-6に近接してある。遺構の大半は基礎に切られているが、不整な長方形のプランを呈す。土坑墓の可能性も考えられるが，床までの深さは３cmで埋土の状況も不明確のため土坑とした。

SK-45はPitに切られる。壁は垂直に近く立ち上がり、床はPitの方へ下がり、斜めの床面となる。遺物の出土はなく時期の確定もできない。

SK-46はSK-45に近接してある。隅丸長方形のプランを呈す。土坑墓の可能性も考えられたが、埋土状況からは判別できな



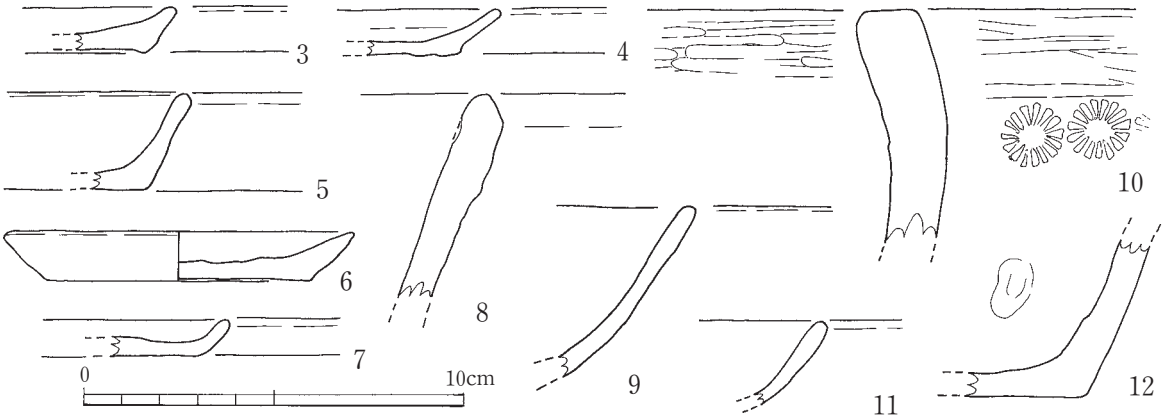
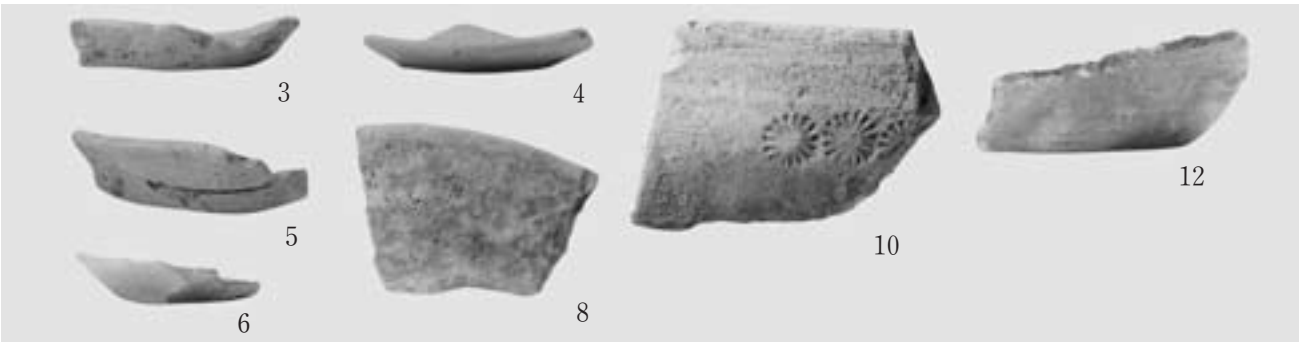


Fig. 5　SK-7・10・18・20・22・25・26出土遺物実測図（S1/2）



PL. 4　SK出土遺物

かったため、今回は土坑とした。

SK-47はPitに切られ、SK-35を切る。平面形状は不整形を呈す。床面は中心部が深く37cmを測り、小Pitが２個検出された。壁は北側が緩やかに立ち上るが、他は垂直に近い。

SK-48はPitに切られ、SK-20を切る。平面形状は隅丸方形のプランを呈す。Pitとの重複が著しく、本来の床面の形状を確認できない。底面までの最深部は31cmとなる。遺物は出土せず時期の確定もできない。

SK-52はSD-11に切られる。壁は緩やかに皿状に立ち上り、深さ14～17cmを測り、平面形状は、本来楕円形もしくは不整長方形を呈していたと考えられる。

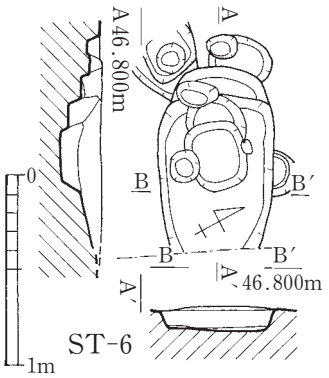


Fig. 6　ST-6実測図（S1/40）

出土遺物

1はSK-22より出土した滑石製の石鍋の小片。残存高3.5cmを測る。口縁部直下に削りだしの鍔があり、鍔の断面形は台形状をなす。内外ともに磨耗が著しいため、ケズリの方向等は不明瞭。**2**はSK-25より出土の硯の破片で、石材は不明。残存長11.0cm、幅4.7cm、厚み1.7cmを測る。転用された痕跡は見受けられない。**3**はSK-7から出土した土師器の小皿ａの破片で、器高1.2cmを測る。胎土には0.5mm程度の石英・雲母を含んで、焼成は良い。内面灰黄褐色10YR7/3、外面にぶい黄褐色10YR7/3の色調を呈す。底部は糸切り。**4**もSK-7より出土した土師器の小皿aの破片。器高1.4cmで、復元口径は計測できない。胎土に0.5mmの角閃石を含み、焼成は良好である。

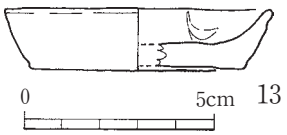


Fig. 7　ST-6出土遺物実測図（S1/2）

色調は内面にぶい黄橙色10YR6/4、外面は明赤褐色2.5YR 5/6と一部浅黄橙色10YR8/4を呈す。内外面の調整はナデである。**5**は土師器の坏ａの破片で器高2.6cmを測る。小片のため復元口径等は不明。胎土に２mm以下の石英・雲母を含んでいる。色調は内外ともに、にぶい黄橙色10YR7/3を呈す。調整は内外ともにナデ。底部は糸切り痕がある。SK-18出土。**6**、SK-22から出土した土師器の小皿ａで、復元口径9.2cm器高1.3cm、底径7.0cmとなる。胎土には微量の雲母を含む。内面灰黄褐色10YR5/2・6/2、外面にぶい黄橙色10YR6/4の色調を呈し、底部は糸きり痕が残る。**7**は器高1.0cmを測る小皿ａの破片。底面は糸切り痕がある。**8**、瓦質擂鉢の口縁付近の破片。残存器高5.4cmとなる。焼成はあまく、色調は内面灰白色10YR8/1、外面褐灰色7.5YR6/1を呈し、器表面は摩滅が著しく、SK-18より出土した。**10**は瓦質土器の火舎の口縁部片。口縁は体部から内湾し、体部外面に花文のスタンプを押捺。口縁

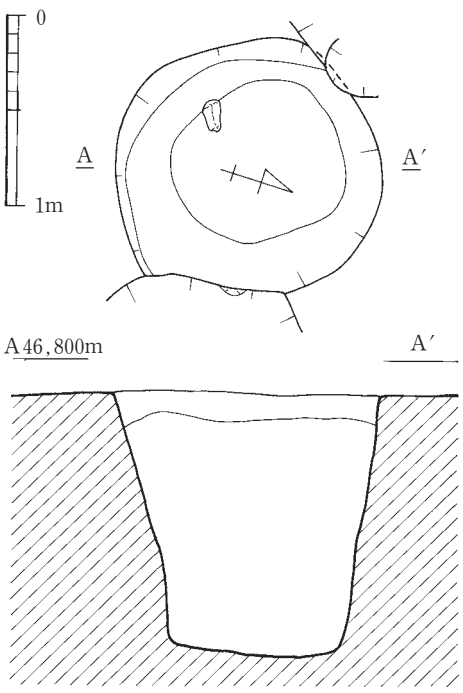


Fig. 8　SE-14実側図（S1/40）

PL. 5　SE-14

端部はやや丸みを持つ。

② ST（墳墓）

ST-6はPitや基礎に切られる。長さ80＋αcm、幅60cmを測る。主軸をN-62°-Eにとる。深さ12cmで残りは悪い。

出土遺物

13はST-6から出土した小皿bである。復元口径7.0cm、器高1.6cm、底径5.6cmを測る。胎土に0.5～1cm程の雲母を少量含む。色調は内面浅黄橙色10YR8/3、外面明褐灰色7.5YR7/2を呈す。焼成は良好である。調整は内外面ともにナデで仕上げる。底面には糸切り痕がある。

③ SE（井戸）

調査区の中央南側で検出された**SE-14**はSK-7・SD-34に切られる。平面は不整な円形プランを呈し，長径2.4m、短径2.2m、深さ1.4mを測る。茶褐色土で埋没し、底は砂層に達し湧水する。底面に木材が出土したが小片のため全容を知る事はできない。

出土遺物

14～17・19・20は土師器の小皿ａである。復元口径は7.2～10.0cm、器高1.1～1.3cm、底径6.5～7.0cmの範疇にある。いずれも焼成は良好。**14・20**の胎土は１mm以下の砂粒･赤褐色粒･雲母片を少量含んでいる。**15・16**の胎土は１mm以下の石英・雲母を含む。**19**のみが少量の砂粒を含んでいる。**18・21・24**は丸底坏ａである。**18・21**の器高は2.8～3.1cmの範囲にある。**24**の復元口径は16cm、器高2.8cmを測る。**22・23**は土師器の坏ｂで復元口径14.1～17cm、器 高2.7～2.8cm、底径8.6～10.4cmの範囲にある。胎土には0.5～２mm以下の石英･雲母片を少

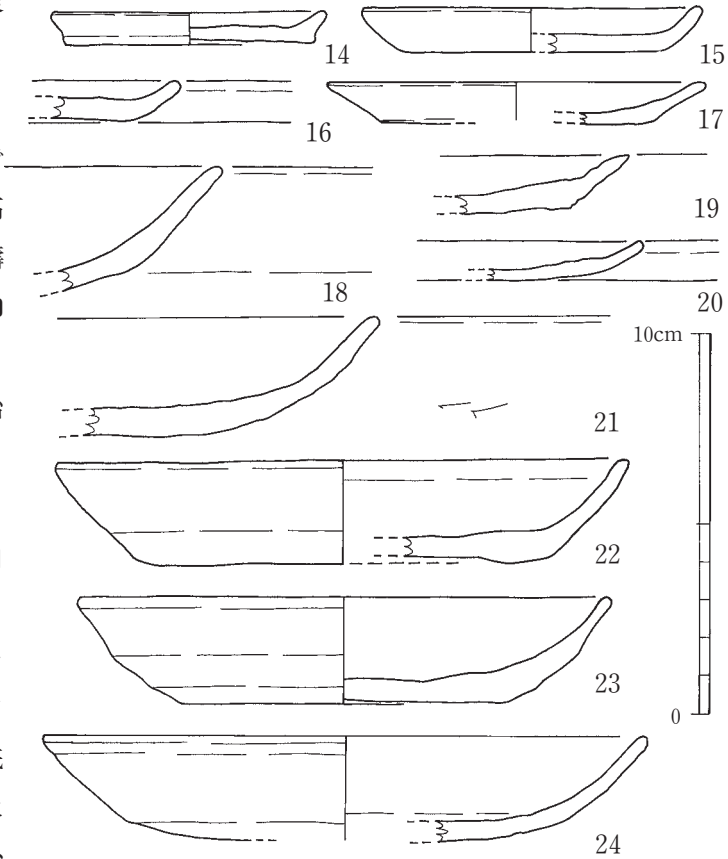
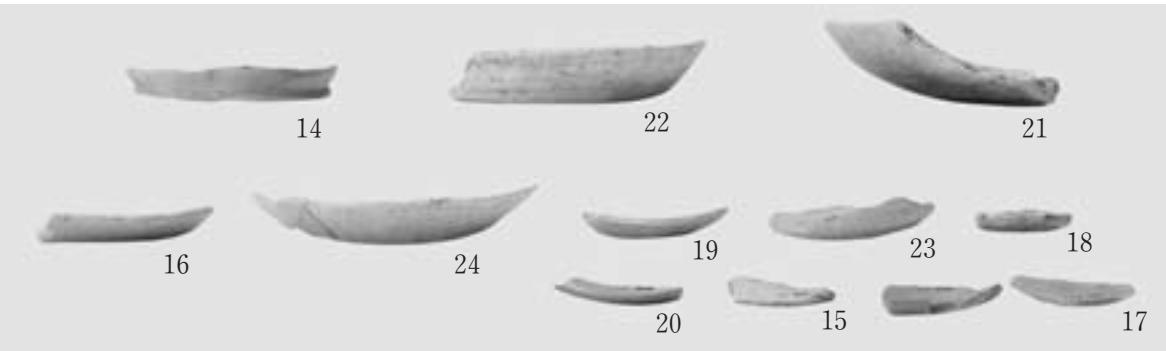


Fig. 9　SE-14出土遺物実測図（S1/2）



PL. 6　SE出土遺物

量含み、焼成はいずれも良好である。ともに内外面もナデによる調整で仕上げられる。**21**の外底面には煤が付着する。**14**〜**17**・**20**・**23**の底部に糸切り痕跡と板状圧痕を残す。**18**の内外面だけが灰白色10YR8/1の色調を呈している。

④ SD（溝状遺構）

溝は東側に集中して検出された。東西方向や南北方向に延びるものもあるが、土坑状を呈し、調査区内で終息するものも多い。

SD-1はSK-4に切られる。調査区西南側で検出された土坑状の溝で、断面形状は浅いU字状を呈す。溝幅は30cmで、深さ6〜10cmとなりSK-4の方へ向かって深くなる。遺物は細片が少量出土したが図示はできない。

SD-2は、ほぼ東西に走る溝で、西側は調査区外へ延びる。また東側へはやや蛇行しながら、基礎を挟んで30cm程延びて終息する。SD-5を切って、SK-31に切られるが、溝幅はSK-31と重複する部分で広がる。西側の幅30cm、広くなる部分で65cmとなる。溝の深さは10〜15cmで、僅かだが東側が深くなっている。断面形状は、概ね逆台形状を呈している。

SD-5は、SD-2に切られ、南側から北東側に走る。南側から1.3mまでが直線的で、ここから東よりに向きを変える。現存長2.1mを測り、断面は浅いU字状を呈す。幅25cm、深さ10cmで細長い土坑状となる。出土遺物は土師器の細片ばかりで図示できなかった。

SD-9は調査区のほぼ中央で検出。SK-8に切られる。北西側から南東側へ延び、現存長1.5mを測る。残りは悪く、深さは5cmしかない。断面形状は浅い皿状を呈している。床面に数個のPitが検出されたが、溝に伴うものではない。

SD-11は調査区東側で検出された。南北に延びる溝でSD-12・13と重複する。幅は1.15mを測るが、壁は5cmしか残らず深さは非常に浅い。断面形状は浅い皿状となる。

SD-12は調査区の東側で検出された。南北に延びるが直進せず西側へ曲がる。しかし基礎を挟んで溝の続きは検出されない。このため基礎部分で終息すると思われる。溝の底面は水の流れが著しかったためか凹凸が多く、粗い砂が堆積していた。幅0.9mで断面形状は皿状となる。

SD-13の北東部は基礎の外

表―2　SD一覧表

号	大きさ（m）			出土遺物	備　　考
	長	幅	深		
1	0.53＋α	0.30	0.6〜0.10	土師器・瓦器	S4・pit69に切られる
2	0.45＋α	0.30〜0.64	0.10〜0.15	土師器・瓦器・石器・白磁・縄文土器	S5・pit15・21・51・52・153・154・160・161・164・213を切る。S31・53・pit95・103・158pit・カクランに切られる。
5	2.10	0.25	0.07〜0.30	土師器	pit51・138・168を切る。S2・pit33〜35・47・159・pitに切られる。
9	1.50＋α	0.59	0.04〜0.05	土師器・須恵器	pit75・211を切る。S8・pit76・pitに切られる。
11	4.87＋α	1.15	0.05〜0.09	土師器・須恵器・青磁・砥石片・黒曜石・瓦器	S13・52・pit240を切る。S12・pit85・235・243・244・246〜250・pit・カクランに切られる。
12	3.55＋α	0.56〜1.93	0.05〜0.12	土師器・青磁	S11・pit245を切る。S10・pit238・242・246・pit・カクランに切られる。
13	2.33＋α	0.26〜0.48	0.04〜0.08	土師器・青磁	S50・51・pit229を切る。S11・pit234・pit・カクランに切られる。
15	1.60＋α	0.46	0.09〜0.13	土師器・青磁・砥石・石鍋・鉄器・火舎	pit231〜233・カクランに切られる。
16	2.03＋α	1.15＋α	0.01〜0.06	土師器・青磁	S19を切るS17・pit・カクランに切られる。
17	1.59＋α	0.44	0.08〜0.12	土師器・青磁・白磁	S16・19を切るS10・pit109・256・pitに切られる。
19	2.05＋α	1.12＋α	0.09〜0.11	土師器・陶器・黒曜石	S10・11・16・17・pit250〜255pit・カクランに切られる。
24	1.35＋α	0.32	0.02〜0.03	土師器	pit126を切る。S25・pit121・125・pitに切られる。
29	0.62	0.22	0.10	サヌカイト	S49に切られる。
30	1.20＋α	0.18	0.03〜0.06	土師器	pit11を切る。pit1・3・10に切られる。
34	0.60＋α	0.34	0.11〜0.13	土師器	S14を切る。pit74・pitに切られる。
38	0.47＋α	0.27	0.04		S48・pit46・pitを切る。pit42に切られる。
41	0.26＋α	0.14	0.03		pit183に切られる。
49	0.50＋α	0.14	0.01		S29・pit175に切られる。
50	0.50＋α	0.18	0.05		pit227を切る。S13に切られる。
51	0.50＋α	0.29	0.03		S13・pit241に切られる。

PL. 7　SD-11

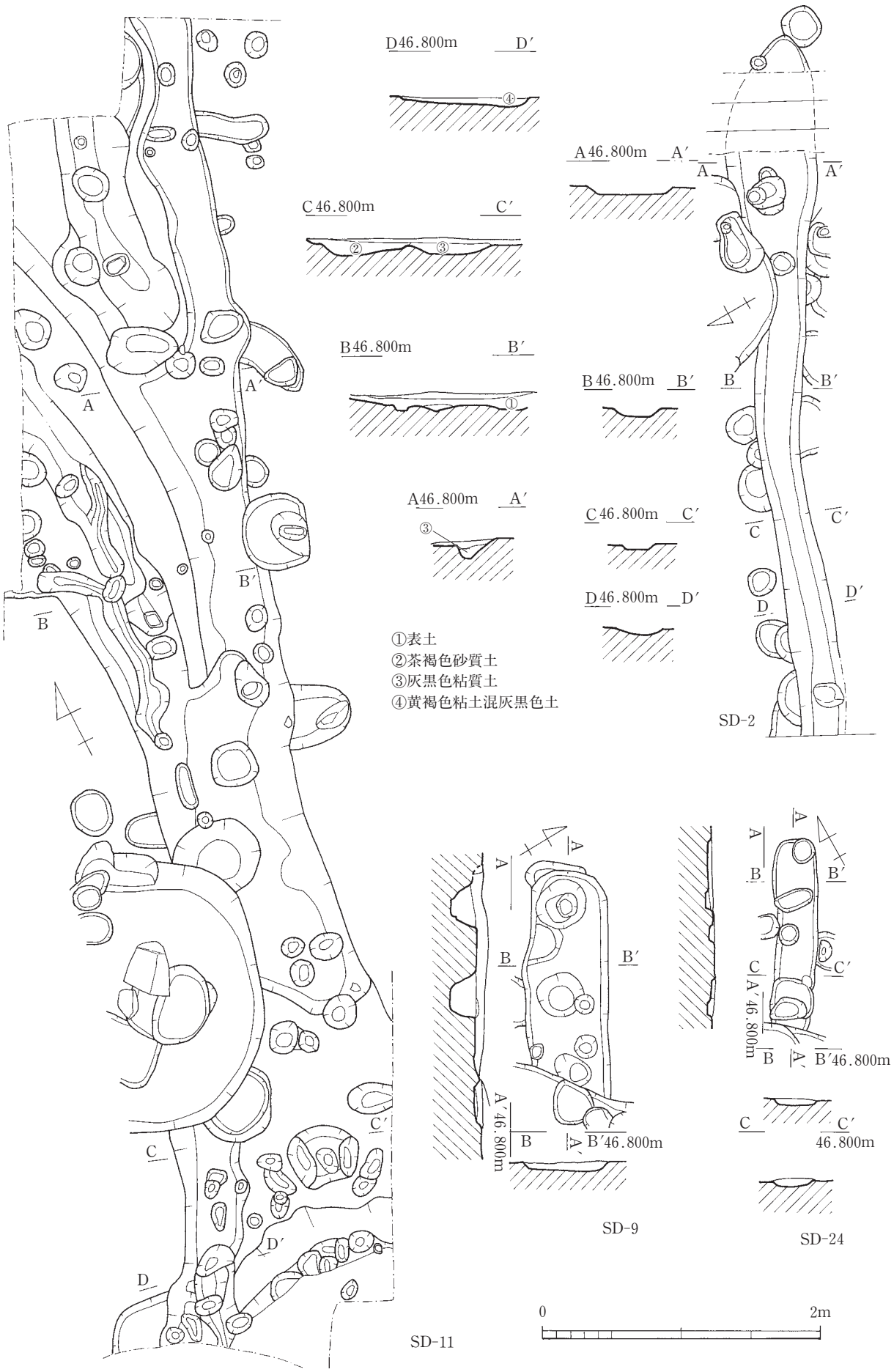
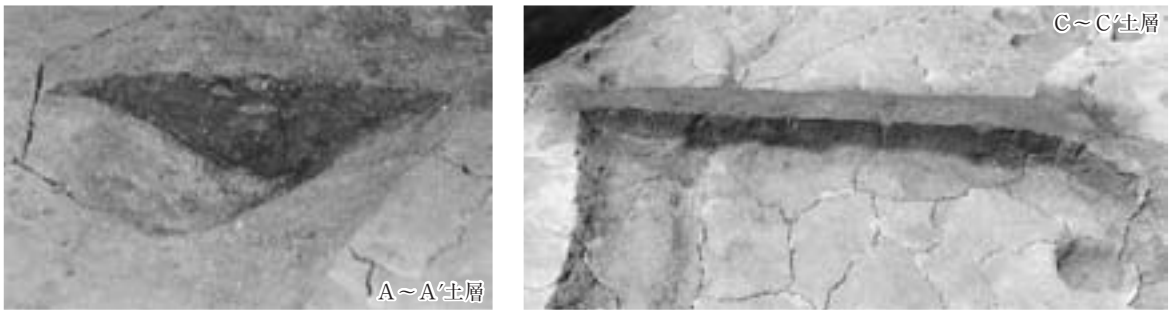
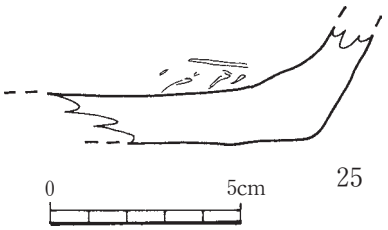


Fig. 10　SD-2・9・11・24実測図（S1/40）





PL. 8　SD-11土層

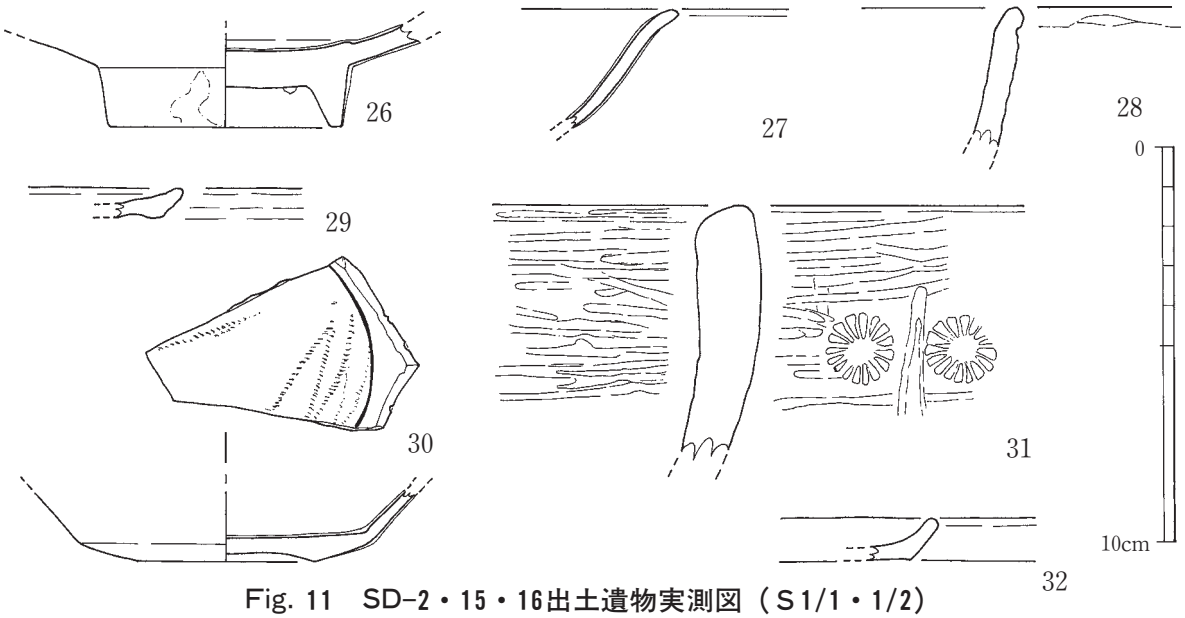
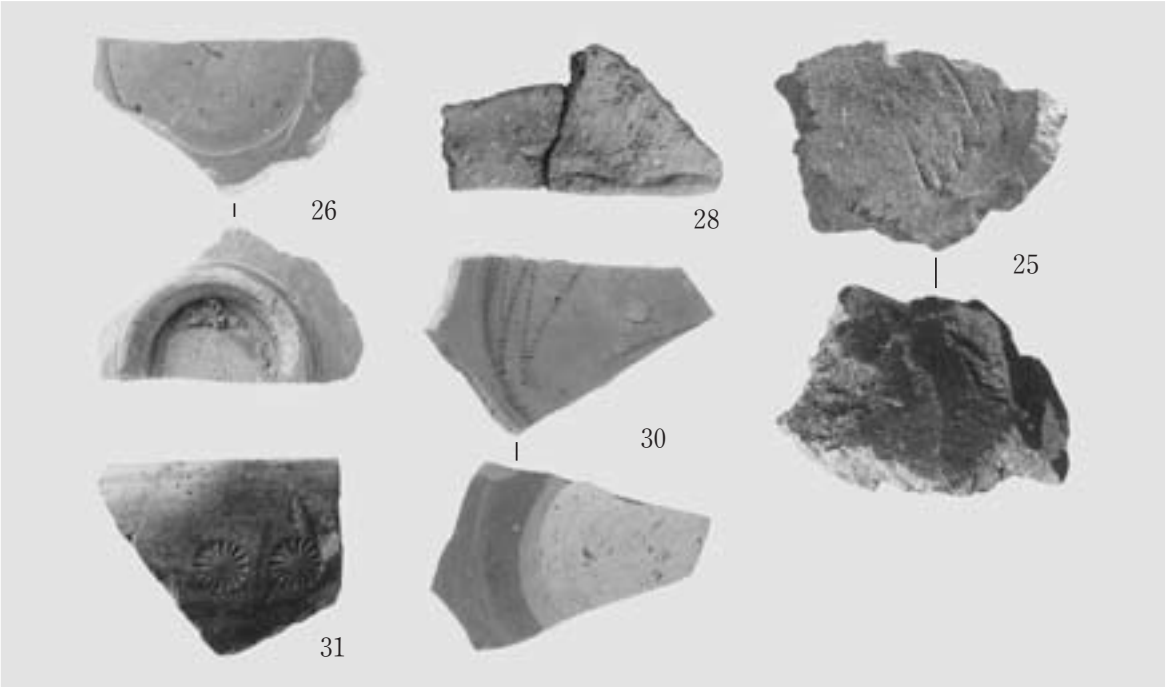


Fig. 11　SD-2・15・16出土遺物実測図（S1/1・1/2）



PL. 9　SD出土遺物

側へ延びる。北東から2.4mでSD-11と合流する。溝の形状・深さ・埋土に違いがある事からSD-11とは別の遺構と考えた。溝の断面形状は逆台形で0.38～0.45cmを測る。検出された溝のなかでは、一番深く0.25cmを測る。

SD-15はSD-12・13の間で検出。北東の基礎から0.7m延びて終息する。断面形状は浅い皿状をなす。遺物は火舎や土師器が出土した。

SD-16はSD-17に切られ、SD-19を切る。基礎の外,南側に延びる。確認調査の結果では、この基礎の南側は谷部となる事から周辺は谷への落ち際にあたると思われる。ここで重複していた溝が合流する。一見すると溜まり状の土坑と見間違う。

出土遺物

26はSD-2から出土した。白磁椀の高台部の破片で、高台径6.0cm、残存高2.7cmを測る。胎土は緻密。釉は灰白7.5Y7/1、露胎は灰白7.5Y8/1の色調となる。焼成は堅緻。**27**は白磁椀の口縁部の破片である。残存高3.1cmを測り、胎土は緻密である。色調は釉調、灰白7.5Y7/1、露胎は灰白7.5Y 8/1を呈し、焼成は良好。SD-2から出土。**28**、縄文土器の深鉢の口縁部。残存高3.5cmを測り、胎土には0.5～２mm程度の雲母片を多く含んでいる。色調は内面にぶい赤褐色7.5YR5/4、外面にぶい橙色7.5YR6/4を呈し、焼成は良い。SD-2から出土した。**29**、SD-15から出土した土師器小皿ａの破片である。器高1.8cmを測る。胎土には少量の雲母片を含むが、焼成は良好。内面灰黄褐色10YR5/2、外面にぶい黄橙色10YR 6/3の色調を呈す。**30**は龍泉系青磁の小皿で復元底径4.4cm、残存高1.8cmを測る。胎土は緻密。釉は灰オリーブ色7.5Y6/2、露胎は灰白色7.5Y7/1の色調を呈す。焼成は良好で、SD-15出土。**31**は瓦質の火舎の口縁部の破片である。残存高は6.2cmで体部から口縁端部へは内湾し外面の口縁直下には、花文のスタンプを押捺する。胎土には少量の雲母を含んでいるが焼成は良い。色調は内面灰色N4/1、外面灰色N6/1をなす。**32**は土師器小皿ａの破片。器高1.1cm、口縁端部は丸く収める。底面には糸切り痕が残る。

⑤ Pit（柱穴）

Pitは調査区の中央部から西側に集中して検出された。調査区の東側は溝が重複して検出された箇所でPitは少ない。また検出されたPitに

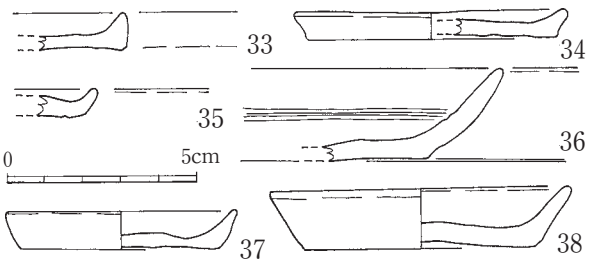
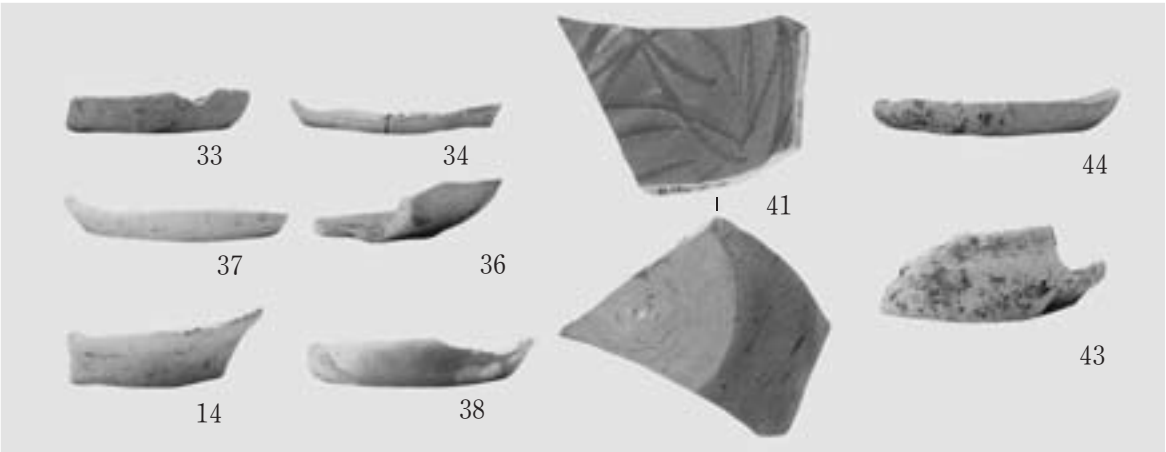


Fig. 12　Pit出土遺物実測図（S1/2）



PL. 10　Pit出土遺物

は、規則性はなく掘立柱建物跡としてまとまるものはなかった。

出土遺物

33〜**40**・**42**〜**44**は土師器。**33**〜**35**・**37**〜**39**・**42**・**44**は小皿ａに**36**・**43**は坏ａに分類でき、**40**の底面だけがヘラ切り、他の底面には糸切り痕が残る。**34**は復元口径7.3cm、器高0.7cmで、胎土には赤褐色粒･砂粒･雲母を少量含むが焼成は良い。内外とも、にぶい橙色7.5YR7/4を呈し、Pit-105から出土した。Pit-116より出土した**36**は小片のため口径は復元できないが、器高2.5cmとなる。胎土には２mm以下の石英･雲母を含む。**37**は復元口径6.2cm、器高1.0cmを測り、内面に指頭痕がある。Pit-77出土。**38**はPit-133から出土し、復元口径7.8cm、器高1.6cmとなる。内面灰白色7.5YR8/1、外面褐灰色7.5YR5/1の色調を呈す。**40**は復元口径9.0cm、器高2.15cmの小皿ａで焼成は良い。**41**はPit-41から出土した青磁の皿の底部片である。釉調は 灰オリーブ7.5YR6/2、露胎は灰色7.5YR6/1を呈し、焼成は良い。**43**はPit-54から出土した。復元口径7.6cm、器高3.1cmで内外は灰白色10YR8/2の色調を呈す。口縁部は外反し、底面には糸きり痕が残る。**44**は復元口径8.5cm、器高1.1cmを測る。色調は内外にぶい黄橙色10YR6/3を呈す。焼成は良い。**45**は細粒砂岩製の砥石で、Pit-49から出土した。現存長5.7cm、幅3.6cm、厚み4.2cmを測り、砥面は表・裏面の二面となる。

PL. 11　Pit検出状況

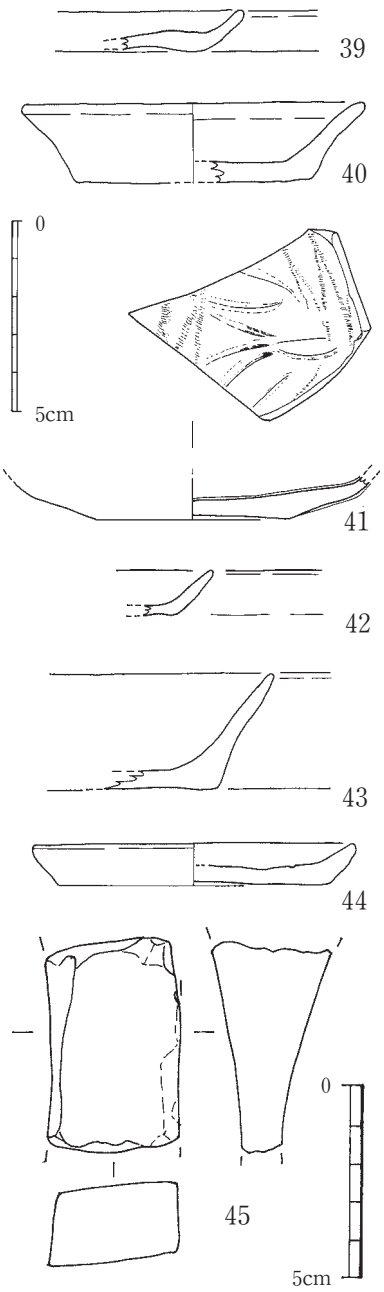


Fig. 13　Pit出土遺物実測図（S1/1･1/2）

4．まとめ

今回の調査区は、面積も狭く遺跡の全容は十分に把握できなかった。調査区は確認調査の結果から小谷の縁辺部に位置するが確認できた。遺構は北側の山家小学校や西側方向へ続くものが多く、遺跡の中心も小学校付近と思われる。出土した土師器小皿ａの大半の時期は大宰府土器型式ＸＶ型式に、また青・白磁はＤ期に該当することから、調査区の遺構の時期は、概ね12世紀中頃以降から後半代のものといえる。また小学校北側にある山家宝満宮の勧請は12世紀後半頃ともいわれ、この遺跡とのなんらかの関連性も考える必要があるかも知れない。

表― 3　出土土器観察表

Fig.番号	器　種	法　量　(cm)			手法の特徴	備考　法量の(　)は推定値、復元値を示す Ａ：色調　Ｂ：胎土　Ｃ：焼成　Ｄ：残存状況　Ｅ：その他
		口径	底径	器高		
9－22	坏(土師器)	(17.0)		2.7＋α	内外面ヨコナデ	Ａ．内　浅黄橙色10YR8/3、外　浅黄橙色7.5YR8/4 Ｂ．0.5～２mm程ウンモ含む Ｃ．良好 Ｄ．1/4
9－24	坏(土師器)	(16.0)		2.8	内外面ヨコナデ	Ａ．内　淡橙色5YR8/4、外　橙色7.5YR7/6 Ｂ．１mm程ウンモ含む Ｃ．良好 Ｄ．1/4
9－21	坏(土師器)			3.1	内面ヨコナデ	Ａ．内　明褐灰色7.5YR7/2、外　灰褐色7.5YR6/2・浅黄橙色7.5YR8/3 Ｂ．１mm以下細砂粒わずかに含む Ｃ．良好 Ｄ．口縁部1/8 Ｅ．外底面煤付着
5-8	摺鉢 (瓦質土器)			5.4＋α	内外面剝離	Ａ．内　灰白色10YR8/1、外　褐灰色7.5YR6/1 Ｂ．0.5～2.5mm程ウンモ・細砂粒含む Ｃ．あまい Ｄ．口縁部1/2
5-12	火舎 (瓦質土器)			5.0＋α	内面ナデ、内面体部下位指頭圧痕、外面体部下位ミガキ	Ａ．内　黒褐色7.5YR3/1、外　灰白色10YR7/1 Ｂ．0.5～2mm程ウンモ含む Ｃ．良好 Ｄ．底部1/8 Ｅ．内面・外底面煤付着
9-19	小皿 (土師器)			1.5＋α	内外面器表摩耗	Ａ．内　橙色2.5YR7/8、外　橙色5YR7/6 Ｂ．細砂粒・少量ウンモ含む Ｃ．良好 Ｄ．口縁部1/8
11-29	小皿 (土師器)			1.8＋α	内外面ヨコナデ、外底面板おこし	Ａ．内　灰黄褐色10YR5/2、外　にぶい黄橙色10YR6/3 Ｂ．少量ウンモ含む Ｃ．良好 Ｄ．口縁部1/2
12-35	小皿 (土師器)			0.7＋α	内面指頭圧痕、外面口唇部～体面下位ヨコナデ、外底面糸切り	Ａ．内　にぶい橙色5YR6/4、外　にぶい橙色5YR7/4 Ｂ．１～３mm程ウンモ・微細砂粒含む Ｃ．良好 Ｄ．口縁部1/2
13-42	小皿 (土師器)			1.15＋α	内外面ヨコナデ、外底面糸切り	Ａ．内　にぶい橙色5YR7/4、外　橙色5YR7/6 Ｂ．0.5mm程ウンモ含む Ｃ．良好Ｄ．口縁部1/12
12-33	小皿 (土師器)			1.0＋α	内面～外面回転ナデ、外底面糸切り	Ａ．内　灰黄褐色10YR6/2、外　にぶい黄橙色10YR6/3 Ｂ．0.5～１mm程角閃石・細砂粒含む Ｃ．良好 Ｄ．口縁部1/8 Ｅ．外底面目砂付着
5-4	小皿 (土師器)			1.4＋α	内面～外面ヨコナデ、外底面板おこし	Ａ．内　にぶい黄橙色10YR6/4、外　明赤褐色2.5YR5/6・浅黄橙色10YR8/4 Ｂ．0.5mm程角閃石含む Ｃ．良好 Ｄ．口縁部1/8
5-3	小皿 (土師器)			1.2＋α	内面～外面回転ナデ、外底面糸切り	Ａ．内　灰黄褐色10YR7/3、外　にぶい黄褐色10YR7/3 Ｂ．0.5mm程石英・ウンモ含む Ｃ．良好 Ｄ．口縁部1/8
9-17	小皿 (土師器)	(10.0)	7.0	1.1＋α	内面～外面回転ナデ、外底面糸切り・板状圧痕	Ａ．内　にぶい黄橙色10YR7/2、外　褐灰色10YR6/1 Ｂ．0.5mm程ウンモ含む Ｃ．良好 Ｄ．口縁部1/4
	皿(土師器)			0.6	内外面ヨコナデ外底面ヘラおこし	Ａ．内　灰白色10YR8/2、外　浅黄橙色10YR8/3 Ｂ．少量角閃石・1.5mm程ウンモ少量含む Ｃ．良好 Ｄ．口縁部1/8
11-30	小皿(青磁)		(4.4)	1.8＋α	内外面釉、外底面回転ナデ・露胎	Ａ．内外　釉灰オリーブ色7.5Y6/2・露胎灰白色7.5Y7/1 Ｂ．緻密 Ｃ．良好 Ｄ．底部1/4
13-41	小皿(青磁)		(5.0)	1.2＋α	内外面釉、外底面露胎	Ａ．内外　釉灰オリーブ色7.5Y6/2・露胎灰色7.5Y6/1 Ｂ．緻密 Ｃ．良好 Ｄ．底部1/4
11-27	椀(白磁)			3.1＋α	内外面釉、口唇部露胎	Ａ．内外　釉灰白色7.5Y7/1・露胎灰白色7.5Y8/ Ｂ．緻密 Ｃ．良好
9-16	小皿 (土師器)			1.1＋α	内外面ヨコナデ、内底面ナデ、外底面板状圧痕・糸切り痕	Ａ．内　浅黄橙色10YR8/3、外　にぶい橙色10YR7/4 Ｂ．２mm程石英・ウンモ含む Ｃ．良好 Ｄ．1/6

Fig.番号	器　種	法　量　(cm)			手法の特徴	備　　考
		口径	底径	器高		
9-18	坏(土師器)			3.1＋α	内外面ヨコナデ、外底面ナデ	A．内外　灰白色10YR8/1 B．２mm以下石英・ウンモ含む C．良好 D．1/12
12-36	坏(土師器)			2.5＋α	内面器表摩耗、外面ヨコナデ、外底面糸切り	A．内　浅黄橙色7.5YR8/3、外　にぶい橙色7.5YR7/4 B．２mm以下石英・ウンモ含む C．良好 D．1/6
13-43	坏(土師器)			3.1＋α	内外面ヨコナデ、外底面糸切り	A．内外　灰白色10YR8/2 B．３mm以下石英・ウンモ含む C．良好 D．1/5
9-15	小皿 (土師器)	(9.0)	(7.0)	1.20	内外面ヨコナデ、外底面糸切り後板状圧痕	A．内　にぶい橙色7.5YR6/4、外　にぶい橙色7.5YR7/4 B．1.5mm以下石英・ウンモ含む C．良好 D．底部1/4
5-11	小皿 (土師器)			2.3＋α	内外面、ヨコナデ	A．内　にぶい橙色7.5YR7/3、外　灰白色7.5YR8/2 B．２mm以下砂粒・ウンモ含む C．良好 D．口縁部1/4
11-26	椀(白磁)		高台径 6.0	2.7＋α	内外面釉、外底面露胎	A．内外　釉灰白色7.5Y7/1・露胎灰白色7.5Y8/1 B．緻密 C．堅い D．高台部1/2 E．目砂付着
9-23	坏(土師器)	(14.1)	(8.6)	2.8	内底面ナデ、内外面ヨコナデ、外底面糸切り後板状圧痕	A．内外　浅黄橙色10YR8/3 B．２mm以下石英・赤褐色粒・ウンモ含む C．良好 D．底部1/4
9-14	小皿 (土師器)	(7.2)	(6.5)	1.2	内底面ナデ、内外面ヨコナデ、外底面糸切り	A．内　明褐灰色7.5YR7/2、外　にぶい橙色7.5YR6/4 B．１mm以下砂粒・赤褐色粒・ウンモ含む C．良好D．1/2 E．口縁・底部歪
9-20	小皿 (土師器)			1.1＋α	内底面ナデ、内外面ヨコナデ、外底面板状圧痕	A．内　にぶい橙色7.5YR7/4、外　にぶい橙色7.5YR6/4 B．１mm以下砂粒・ウンモ含む C．良好 D．1/4弱
11-32	小皿 (土師器)			1.1＋α	内外面ヨコナデ、外底面糸切り	A．内外　にぶい橙色7.5YR7/4 B．１mm以下石英・ウンモ含む C．良好 D．口縁部1/8
5-5	坏(土師器)			2.6＋α	内外面ヨコナデ、外底面糸切り	A．内外　にぶい黄橙色10YR7/3 B．２mm以下石英・ウンモを含む C．良好 D．口縁部1/6
11-28	深鉢 (縄文土器)			3.5＋α	内外面剝離、口縁部ヘラ痕	A．内　にぶい赤褐色7.5YR5/4、外　にぶい橙色7.5YR6/4 B．0.5～２mm程ウンモ多く含む C．良好 D．口縁部1/12
5-7	小皿 (土師器)			1.0＋α	内底面ナデ、内外面ヨコナデ、外底面糸切り	A．内外　にぶい橙色7.5YR7/4 B．２mm以下石英・ウンモ含む C．良好 D．1/8
5-6	小皿 (土師器)		7.0＋α	1.3＋α	内底面指頭圧痕、内外面ヨコナデ、外底面糸切り	A．内　灰黄褐色10YR5/2・6/2、外　にぶい黄橙色10YR6/4 B．１mm程ウンモ含む C．良好 D．1/4
5-9	椀(土師器)			4.5＋α	内外面ヨコナデ	A．内　灰白色7.5YR8/2、外　浅黄橙色10YR8/3 B．１mm程ウンモ含む C．良好 D．1/12
13-40	小皿 (土師器)	(9.0)	(6.2)	2.15＋α	内外面ヨコナデ、外底面ヘラおこし	A．内　灰白色7.5YR8/2、外　浅黄橙色10YR8/3 B．１mm程ウンモ含む C．良好 D．1/4
13-34	小皿 (土師器)	(7.3)	6.2	0.7	内底面ナデ、内外面ヨコナデ、外底面糸切り	A．内外　にぶい橙色7.5YR7/4 B．砂粒・赤褐色粒・ウンモ含む C．良好 D．底部1/2 E．全体歪
13-44	小皿 (土師器)	(8.5)	(7.0)	1.1	内底面ナデ、内外面ヨコナデ、外底面糸切り後板状圧痕	A．内外　にぶい黄橙色10YR6/3 B．３mm以下石英・ウンモ含む C．良好 D．底部1/2
12-37	小皿 (土師器)	(6.2)	(5.2)	1.0＋α	内底面ナデ、内底面中央指頭圧痕、内外面ヨコナデ、外底面糸切り	A．内　灰白色10YR8/2、外　浅黄橙10YR8/3 B．0.5～２mm程ウンモ含む C．良好 D．1/4
13-39	小皿 (土師器)			1.1＋α	内底面ナデ、内外面ヨコナデ、外底面糸切り	A．内　橙色7.5YR7/6、外　にぶい橙色7.5YR7/4 B．砂粒・赤褐色粒・ウンモ含む C．良好 D．1/8
7-13	小皿 (土師器)	(7.0)	(5.6)	1.6＋α	内底面ナデ、内面指頭圧痕、内外面ヨコナデ、外底面糸切り	A．内　浅黄橙色10YR8/3、外　明褐灰色7.5YR7/2 B．0.5～1.5mm程ウンモ含む C．良好 D．1/4
12-38	小皿 (土師器)	(7.8)	6.2	1.6＋α	内底面ナデ、内外面ヨコナデ、外底面糸切り	A．内　灰白色7.5YR8/1、外　褐灰色7.5YR5/1 B．0.5～２mm程ウンモ含む C．良好 D．1/2
5-10	火舎 (瓦質土器)			6.2＋α	内面体部ヨコナデ、口縁部ミガキ、外面体部ナデ、外面体部菊花文	A．内　灰白色2.5Y7/1、外　灰白色5Y8/1 B．２mm以下石英・ウンモ含む C．良好
11-31	火舎 (瓦質土器)			6.2＋α	内面ナデ、口縁部ヨコナデ後ミガキ、外面体部菊花文	A．内　灰色N4/1、外　灰色N6/1 B．0.5mm程ウンモを含む C．良好 D．1/12

報告書抄録

ふりがな	どうとくいせき
書名	道徳遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	筑紫野市文化財調査報告書
シリーズ番号	第83集
編集者名	渡邊和子
編集機関	筑紫野市教育委員会（教育部・文化財課　文化財担当）
所在地	〒818-8686　福岡県筑紫野市二日市西1-1-1　TEL 092（923）1111㈹
発行年月日	西暦2005年3月28日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
道徳遺跡（どうとくいせき）	筑紫野市（ちくしのし）大字山家（おおあざやまえ）	176	413	33°28′54″	131°25′04″	2000.7.01～7.15	113m²	園舎建替

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
道徳	集落	縄文時代 鎌倉時代	溝状遺構 土坑 井戸 土坑墓	縄文土器 土師器 青磁 白磁 火舎	

道徳遺跡

筑紫野市文化財調査報告書

第83集

平成17年3月28日

発行　筑紫野市教育委員会
〒818－8686　福岡県筑紫野市大字二日市西1－1－1
ＴＥＬ　092－923－1111㈹
ＦＡＸ　092－923－9644

印刷　大同印刷株式会社
〒849－0902　佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20
ＴＥＬ　0952－71－8520㈹
ＦＡＸ　0952－71－8528
URL http://www.daidou-jp.com